

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん にほんせんちゆりこうきょうがくだん 公益財団法人 日本センチュリー交響楽団	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	理事長 桜井 博志		
制作団体所在地	〒 561-0885 大阪府豊中市岡町1-1 きたしん豊中ビル6階	最寄り駅(バス停)	阪急電鉄 岡町駅
電話番号	06-6848-3333		
ふりがな 公演団体名	にほんせんちゆりこうきょうがくだん 日本センチュリー交響楽団	団体ウェブサイトURL	https://jcsso.or.jp/
代表者職・氏名	事務局長 河村 一政		
公演団体所在地	〒 561-0873 大阪府豊中市服部緑地1-7	最寄り駅(バス停)	北大阪急行 緑地公園
制作団体 設立年月	1989年5月		
制作団体組織	役職員 理事長:桜井 博志 専務理事:小田 弦也 他 理事、評議員、監事	団体構成員及び加入条件等 楽団員 2管10型(定員55名) 事務局員 17名 加入条件 楽団員はオーディションにより採用	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	澤木 仁美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	畔永 良平
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	kuronagar@century-orchestra.jp fukushimam@century-orchestra.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>大阪府のオーケストラとして1989年に発足し、府民からの公募で大阪センチュリー交響楽団と命名された。大阪府・豊中市を拠点とし、2011年に公益財団法人日本センチュリー交響楽団として大阪府から独立して、2024年12月に楽団創立35周年を迎える。現在、飯森範親が首席指揮者、秋山和慶がミュージックアドバイザー、久石譲が首席客演指揮者(2025年4月より音楽監督就任予定)を務める。ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズと、大阪府下2拠点で定期的な演奏会を開催。</p> <p>2度にわたり大阪府文化祭奨励賞を受賞する(2015年度、2018年度)など、その高水準な演奏は高い評価を得ている。2023年10月には、11年ぶりの海外公演となる「マカオ国際音楽祭」に出演し、大盛況を収めた。</p> <p>オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」、特別支援学校コンサート、ユースオーケストラの運営といった教育プログラム、「豊中まちなかクラシック」(豊中市)、「ルシオール街かどコンサート」(滋賀県守山市)等の地域連携事業にも力を入れている。</p> <p>「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能を発掘し次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念をもとに、本拠地・豊中から日本中へ多くの人々の心に明るい夢が広がることを願い、活動している。</p> <p>オフィシャル・ホームページ https://www.jcso.or.jp</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>【自主事業「Touch The Orchestra」】 2003年度より、当団練習場であるセンチュリー・オーケストラハウスを会場とした体験型コンサートを開催しています。小学校高学年を対象に、楽器体験や指揮者体験、オーケストラの演奏エリア内での鑑賞など、観て・聴いて・触って体感するコンサートを実施し、これまで延べ4万名の児童生徒たちが参加しました。</p> <p>【豊中市との連携事業「ホールでオーケストラ♪」】 2018年度以降、豊中市との連携により豊中市立の中学校を対象とした合同鑑賞会を継続的に開催しており、2021年度より小学生を対象とした公演も開催しています。毎年10校以上の学校にご参加いただき、毎年5～6公演ほど実施しています。生徒たちの地元の音楽ホールで、地元のオーケストラに触れていただく機会を提供しています。</p> <p>【大阪市北区との連携事業】 毎年夏の時期に、区内中学校の吹奏楽部・音楽部を対象とした演奏指導を行うと共に、「北区子供たちの夢づくり事業」として中学校や小学校の合同鑑賞会を開催しています。</p> <p>その他、府内学校の依頼によるオーケストラコンサートや室内楽コンサート、青少年向けコンサートを実施しており、2024年度は約20公演を予定しています。</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>以下の事業は、当団の社会貢献事業の一環として2004年度より継続的に開催しています。参加費を徴収しない招待公演の形を取っており、プロ・オーケストラの生演奏に触れることができる貴重な機会として、児童生徒・教員・保護者の方々から大変ご好評をいただいております。</p> <p>【特別支援学校 オーケストラコンサート】 府内特別支援学校の児童生徒を対象としたオーケストラコンサートを年1回開催し、毎年900～1,000人の児童生徒・教員の皆様にご参加いただいています。完全バリアフリーの会場(国際障害者交流センター ビッグ・アイ)を使用し、車椅子やベッドを使用する児童生徒たちも心置きなくコンサートを楽しめる環境づくりを心がけています。2019年度より、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」に6年連続で採択されています。</p> <p>【特別支援学校 アンサンブルコンサート】 文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」の採択内容の一部として、上記オーケストラコンサートへの来場が難しい学校や生徒を対象にアンサンブルコンサートを実施しています。毎年5校にお伺いし、各校の児童生徒のペースに合わせた内容をお届けしています。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=9FFWvZJUMoE</p>		
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>不要</p>	
	<p>PW:</p>	<p>不要</p>	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 日本センチュリー交響楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	日本センチュリー交響楽団の「楽しく学ぼう！オーケストラ♪」			
企画のねらい	児童生徒たちの成長過程に見合った公演となるよう、小学校プログラムと中学校プログラムをそれぞれ別で組んでおります。どちらのプログラムも生徒たちの音楽鑑賞能力を自然と高められる選曲としており、メイン曲に向けて音楽への理解が深まっていくような構成を意識しております。また音楽の作風は、同じ作曲家でも作品によって性格は全て異なっています。それぞれの相違点や共通点を感じ取りながら子供たちの感性を働かせ、音楽への理解や親しみを深めていただきたいと思います。			
演目概要・演目選択理由	当団の基本編成で存分にオーケストラの魅力を感じていただける作品を中心に選曲しています。プロ・オーケストラだからこそお届けできる芸術性に富んだ曲調、クラシック音楽を中心としながらも様々なジャンルの音楽を体験できる構成を意識し、音楽への理解や鑑賞能力を無理なく向上させられる内容となっております。そして何よりオーケストラを初めて目の前にする子供たちも親しみやすいメロディーであり、飽きずに楽しめる演奏時間であることも重視したプログラムとなっております。また、鑑賞する時間・解説を聞く時間・演奏に参加する時間を偏りなく構成することで公演全体のリズムを作り、子供たちの集中力が途切れることなく、最後まで楽しめる流れを作ることも重要視しています。			
児童・生徒の参加又は体験の形態	24年度の新たな試みとして大変ご好評をいただいた『あなたも舞台上に！(小学校公演のみ)』を、引き続き実施いたします。子供たちがオーケストラの演奏エリア内に入り、オーケストラを間近で体感していただける演目となっております。参加人数の上限は50名に増やして各校にご提案いたします。楽器紹介等で興味を持った楽器の近くへ座っていただき、演奏者の表情やテクニックを観察しながら、迫力あるオーケストラサウンドを体験していただきます。 例年取り入れている手拍子共演、合唱共演、吹奏楽共演、指揮者体験、校歌(オーケストラ版)のプレゼントも引き続き実施いたします。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～1,000名(体育館のサイズ、共演演目による)	
		鑑賞人数目安	～1,000名(体育館のサイズによる)	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	【小学校プログラム】 ●ビゼー: 歌劇「カルメン」第一幕への前奏曲 ●楽器紹介コーナー ●各校校歌 ●チャイコフスキー: バレエ組曲「くるみ割り人形」より花のワルツ ●選択制プログラム(以下いずれか1曲を選択) 《あなたも舞台上に！》J.シュトラウスⅡ世: トリッチ・トラッチ・ポルカ 《合唱共演》①ピリブ/②花は咲く/③ふるさと ●三村総撤編: 手拍子協奏曲「Clip! Beat! Clap!2」 ●マスカーニ: 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲 ●ビゼー: 歌劇「カルメン」よりジプシーの踊り (Enc.)久石譲(松本俊行編): メロディーズ・フロム・宮崎駿ムービーより		【中学校プログラム】 ●ビゼー: 歌劇「カルメン」第一幕への前奏曲 ●楽器紹介コーナー ●各校校歌 ●選択制プログラム(以下いずれか1曲を選択) ①ベートーヴェン: 交響曲 第5番「運命」より第1楽章 ②スッペ: 喜歌劇「軽騎兵」序曲 ●選択制プログラム(以下いずれか1曲を選択) 《吹奏楽部共演》①アルセナル/②真島敬夫編: 宝島 《合唱共演》③翼をください/④花は咲く/⑤ふるさと ●指揮者体験(体験者2名) プラームス: ハンガリー舞曲 第5番 ●徳山美奈子: 大阪素描より祭 ●マスカーニ: 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲 ●チャイコフスキー: バレエ組曲「くるみ割り人形」より花のワルツ (Enc.)久石譲(松本俊行編): 宮崎駿アニメドレー2より	
	公演時間 90 分			
出演者	指揮: 佐々木新平 他調整中 管弦楽: 日本センチュリー交響楽団(2管10型)			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	【指揮: 佐々木新平】秋田県出身。東京学芸大学を経て桐朋学園大学にて指揮を専攻。ヨーロッパ各地の国際指揮マスタークラスに選抜され、J.パヌラら巨匠たちの薫陶を受ける。2013年よりミュンヘンへ留学しヨーロッパ各地でさらなる研鑽を積んだ。2012年および2017年フィデルバルク国際指揮者コンクールにおいてディプロマ、2015年プザンソン国際指揮者コンクールにおいて本選最終の8人に選出。これまで国内主要楽団に客演。2015-19年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団アソシエイト・コンダクター。2021-24年ヤマハ吹奏楽団常任指揮者。現在オーケストラ指揮を中心にあらゆるシーンで才能を発揮。日本センチュリー交響楽団とは様々な公演で共演を重ね、多彩な音楽の魅力を発信し続けている。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 59 名 スタッフ: 7 名 合計: 66 名	運搬	積載量: 4 t 車長: 8 m 台数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時	13時30分	15分	15時～16時30分	16時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月		
				4日		
	10月	11月	12月	1月		
	3日	13日	10日	5日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	35日		
公演に係るビジュアル イメージ (舞台の規模や演出が わかる写真) ※採択決定後、図 面等の提出をお願い します。			会場の全体写真 (2024年9月公演の様子) 体育館舞台から縦9m、横幅すべての範囲を使用し、オーケストラをセッティングします。 演奏エリアのサイドに設置している黒屏風は、舞台袖を作りコンサートホールに近い環境を作る役割の他、楽器ケース等の備品が子供たちの集中力を削がないよう、目隠しとしての役割も果たしています。			
			公演中の様子① (2024年9月公演の様子) 平台と箱馬を楽団から持ち込み、体育館ステージ下にひな壇を設置します。ひな壇上は木管楽器とホルンが並び、舞台上にはホルンを除く金管楽器と打楽器(ティンパニ)が一列で並びます。 後列の楽器を、後方の児童生徒たちにもよく見ていただけるように工夫しています。			
			公演中の様子② (小学校プログラム/2024年9月公演の様子) 手拍子協奏曲「Clip! Beat! Clip! 2」の様子。 打楽器奏者が手拍子のナビゲーターとなることで、子供たちとの共演を更楽しく盛り上げ、オーケストラをより身近に感じていただけます。通し演奏前に行う手拍子の練習では、演奏者全員と一緒に楽しくレクチャーを行います。			
			公演中の様子③ (中学校プログラム) 吹奏楽共演の様子。 ワークショップでは事前指導を行い、本公演ではオーケストラの中に入って同じパートの楽団員の隣で演奏します。プロ演奏家との共演ができるだけでなく、吹奏楽のレパートリーを大人数の弦楽器パートが加わった合奏で体験できる点も魅力の一つであるといえます。			
			公演中の様子④「あなたも舞台に！」 (2024年9月公演の様子) 児童生徒50名を上限に、演奏エリア内で迫力のあるオーケストラサウンドを体感していただけます。 客席鑑賞との響きの違い、演奏者の表情・演奏テクニックなど、様々な視点からオーケストラの魅力を発見していただけます。			
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否		該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある 場合	権利者名		許諾確認状況		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 日本センチュリー交響楽団 】

ワークショップのねらい	<p>演奏会という特別な空間に慣れ親しみ、気負いすることなくオーケストラを楽しむことができる態勢を整えることを目指して、ワークショップを実施いたします。講師から聴衆(児童生徒たち)へ歩み寄る姿勢を示し、そのことを入口にオーケストラやクラシック音楽を身近なものとして気軽に楽しんでもらえるような工夫を施しながら公演を進めていきます。また、演奏会は演奏者と聴衆の相互作用によって成り立つものであることを理解し、本公演を積極的に楽しむ姿勢を促すことを目的としています。また、リズムアンサンブルや共演曲の演奏指導など、他者と協力しながら演奏会に参加する場面を作ることで、児童生徒たち同士の仲間意識を深め、コミュニケーション能力の育成や、共生社会への参画意識向上に繋がっていくことを期待しています。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～1,000名(実施会場のサイズによる)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>楽団員4名が演奏・司会進行・指導を行う90分(途中休憩含む)のプログラムを基本としています。授業時間の都合等がある場合は、学校の希望に応じて60分や45分の公演時間にアレンジすることも可能です。</p> <p>【基本プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オーケストラを構成する楽器について ワークショップに来ている楽器の音色を聴いたり、それ以外のオーケストラの楽器について構造やオーケストラでの役割について、丁寧に解説します。 ●音楽の歴史、音楽を構成する要素、有名なクラシック作曲家について 音楽にはどのようなジャンルがあり、どのような発展を遂げてきたかを、実演を交えながら歴史を辿っていきます。また、音楽の三要素であるリズム・メロディ・ハーモニーが持つ役割を学び、音楽の仕組みについて多面的に聴き取ることができるような実験を行います。 ●コンサートの楽しみ方について 拍手を送るタイミングや長さ、「ブラボー！」の掛け声など聴衆の表現方法を学びながら、演奏者とのコミュニケーションの取り方を学びます。 ●合唱共演の練習 合唱共演を希望する学校では、本公演で歌唱する曲の練習を行います。ワークショップでは各校の音楽教員の方にピアノ伴奏をお願いしております。オーケストラと共演する際のポイントや音楽のアプローチなど本公演に向けた事前指導を、ワークショップ講師が行います。 ●指揮者体験コーナー 指揮者の役割について学びながら、代表生徒2名に指揮を振っていただきます。ワークショップ講師のメンバーが指揮レクチャーと演奏を行います。 ●ボイス・アンサンブル「やさいのきもち」 講師とともに、野菜の名前を使ったリズムアンサンブルを通して、誰かと一緒に演奏すること、互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを体験していただきます。個々の役割を持ちながら、他者と協働して一つの大きな成果を生み出す楽しさを実感していただける内容となっています。 <p>【中学校プログラム】 上記基本プログラムの他、中学校では本公演で行う共演曲の事前練習、事前指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●吹奏楽共演の練習およびミニコンサート 吹奏楽共演を希望する学校では、講師の指導により本公演で共演する曲のセッション練習と合奏練習を行い、ワークショップの最後では講師によるミニコンサートをお楽しみいただけます。プロの演奏家との交流を通して、音楽を豊かに表現する術や、それらを実現するためのコミュニケーション能力の向上を促します。 		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒たちに親しみを持ってもらうことを目的として、出演メンバーの自己紹介では愛称を伝えています。公演中は、講師を愛称で呼び合いながら進行してゆきます。 ●各校の状況をヒアリングし、公演時間・演奏曲についてはそれぞれの学校に合わせた構成でのご提案をすることも可能です。例えば支援学校での実施については、ボディ・パーカッションによるセッションや、動物クイズ(演奏している曲がどの動物の声や様子を真似しているかを当てる)等の内容を盛り込み、個々の表現や考えをのびのびと表現する時間を増やすなどの工夫もさせていただきます。 ●児童生徒の参加人数に応じて、体育館だけでなく、音楽室や多目的室での実施も可能です。 		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
本事業への応募理由	【公演団体名 日本センチュリー交響楽団】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 プロの演奏家によるフルオーケストラの演奏を聴くことを通して音楽活動や音楽鑑賞の楽しさを知り、将来を担う子供たちの文化芸術への関心や理解を深めていくことを目的として、当事業に取り組みます。初めてのオーケストラ体験を無理なく楽しんでいただけるよう、親しみやすいクラシック作品を中心に採り上げながら、馴染みのない作品でも本格的なオーケストラサウンドを体感できる曲を取り揃えております。また、オーケストラとの共演や楽しい解説など、様々な角度から音楽に触れ、楽しく学べる公演内容を検討しております。 当団の巡回を通じて文化芸術に触れる機会を増やすきっかけを作り、児童生徒たちの芸術鑑賞能力やコミュニケーション能力の向上を図りたいと考えております。</p> <p>また、当団の特筆すべき取り組みは以下の通りです。 (各項目の詳細は、別添に記載いたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●楽団員及び事務局員の代表者で構成される「選曲委員会」を設置し、演奏家とスタッフの垣根を超えて、親しみやすく、教育効果の高い演目を検討します。 ●本公演での教育効果をより高めるため、ワークショップと本公演の関連性を重視しながら内容を構成いたします。 ●楽団独自の演目や音楽体験を盛り込み、オーケストラの魅力や音楽の楽しさを伝えます。 ●自主事業や地域連携事業を通して培ったノウハウを生かし、児童生徒たちとの距離感を縮め、オーケストラや音楽を身近に感じていただける工夫を施します。 ●最後まで飽きずに楽しめる公演を作るため、児童生徒たちが自発的に活動できる演目を取り入れながら進めていきます。 <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 【学校との事前連絡・調整について】 実施日確定後、実施校の校長先生やご担当の先生へお電話やメールでご連絡させていただき、今後の流れについて簡単にご説明いたします。事務連絡だけではなく、不明点や不安な点もお伺いし、一緒に解決策を検討していけるようお話をさせていただきます。各校の事情や状況を事前にヒアリングする中で、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築くことも目的の一つとしています。お電話の後は、楽団が作成するオリジナルの実施マニュアルと希望調査シート(ワークショップ候補日や共演曲の希望調査を記載したもの)をお送りし、双方の手元に同じ資料がある状態を作ります。これから決めていくこと、相談しなければならない内容を可視化し共有することで、初めてご応募いただく学校でも不安要素が少なく準備を進めていただくことができます。</p> <p>【ワークショップについて】 上記の楽団作成の実施マニュアルを基に、適宜ご質問を受け付けながら準備を進めていきます。ご準備いただきたい備品・控室・当日のタイムスケジュール等について綿密に連絡を取り合う行うことで、ワークショップおよびワークショップ時に行う本公演に関する打合せもスムーズに行うことができます。</p> <p>【本公演について】 ワークショップ時の本公演打合せには、楽団の制作担当者と舞台担当者(ステージマネージャー)が参加し、全ての質問や確認事項をその場で解決・相談できる体制で臨みます。それぞれの担当者が対面で話をする事で認識違いを無くし、安心して公演当日を迎えられるように努めています。また、楽器搬入経路や団体バスの導線、学校周辺の道路状況なども確認し、舞台設営・撤収は安全且つ効率的に行い、学校に負担をかけずに実施することを心がけています。</p> <p>また、ワークショップ及び本公演における当団の特筆すべき取り組みは、以下の通りです。 (各項目の詳細は、別添に記載いたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンサートホールのような特別な空間を演出できるよう、舞台設営における工夫を施します。 ●児童生徒たちとステージとの距離感をより縮めるため、ワークショップでの司会進行は講師たちが、本公演での司会進行は指揮者が行います。

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名	日本センチュリー交響楽団 】
<p>本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫</p>	①本事業に対する取り組み姿勢<別添>		
	<p>●楽団員及び事務局員の代表者で構成される「選曲委員会」を設置し、演奏家とスタッフの垣根を超えて、親しみやすく、教育効果の高い演目を検討します。</p> <p>当団には、楽団員と事務局員の代表者で構成される「選曲委員会」を設置しています。演奏者とスタッフという異なる立場で、それぞれの視点から公演を作るため、当事業のために毎年集まり、会議をしております。前年度までの様子を振り返り、反省を生かしながら「音楽を通して次代を担う子供たちに何を伝えるべきか」、「子供たちにとっての特別なオーケストラ体験とは何か」という共通の課題を持ちながら、楽団員と事務局員とが協力して演目を検討します。そのような協力体制で当事業に臨む理由として、楽団員・事務局員双方が、子供たちのためのコンサートを重要な位置づけとして認識しており、当事業以外にも日常的に音楽を通して子供たちと接する機会があることが挙げられます(詳細は4つ目の項目に記載しております)。</p> <p>これまでの芸術鑑賞会で感じた子供たちの反応や、教員の方々からお寄せいただいた声、教育的効果があったと実感した演目などを意見として持ち寄り、90分間飽きずに楽しんで鑑賞できる作品、適切な時間配分を意識しながら、時間をかけて共に検討しています。</p> <p>また、演奏者視点にはなりますが、普段のコンサートホールとは音響や温湿度など演奏環境が全く異なる体育館での実施となるため、体育館で最大限にオーケストラの魅力を発揮できる作品を意識しながら選曲をしています。</p> <p>●本公演での教育効果をより高めるため、ワークショップと本公演の関連性を重視しながら内容を構成いたします。</p> <p>ワークショップでは、本公演を積極的に楽しむためのポイントを効果的に伝えることを重視しながら公演内容を構成いたします。写真やイラストを使用しながら、フルオーケストラが並ぶ風景や演奏の迫力を具体的に伝え、本公演への期待が高まるような工夫を施します。解説と鑑賞だけでなく、指揮者体験やボイスアンサンブルなどの共演を通して、大人数での合奏(アンサンブル)のコツや楽しさ・難しさを体験していただき、目に見えない演奏者同士のやり取りについても学ぶ機会となればと考えております。また、学校からヒアリングした生徒たちの様子をワークショップ講師にも事前共有し、各校の雰囲気や特徴に合わせた言葉選びや進行を検討いたします。</p> <p>本公演では、進行役となる指揮者にもワークショップの演目や子供たちの様子を共有し、ワークショップとの関連性や振り返りなども交えながら公演を進めていきます。</p> <p>また、ワークショップにて近い距離感で接した楽団員が、オーケストラという集団の中で活動している姿をご覧いただくことで、子供たち自身のことを見つめ直し、学校生活や私生活における協調性と個性のバランスや重要性を考えるきっかけとなることを期待しています。</p> <p>●楽団独自の演目や音楽体験を盛り込み、オーケストラの魅力や音楽の楽しさを伝えます。</p> <p>当団の公演でしか体験できないオリジナルの演目を採り入れるで、より特別感のあるコンサートを演出いたします。小学校公演で採り上げるオリジナルの演目は、「手拍子協奏曲 Clip! Beat! Clap!2」と、「あなたも舞台に!」です。</p> <p>「手拍子協奏曲 Clip! Beat! Clap!2」は、会場にいる全員を対象とした聴衆参加型コーナーとなっております。クラシックの名曲からPOPS、日本の民謡まで様々なジャンルの音楽のリズムパターンを手拍子で表現し、メドレー形式で演奏していきます。世界各地の音楽に触れていただきながら、オーケストラの一員として演奏に加わり、会場全体で一つの音楽を創り上げる楽しさを体験していただくことが目的です。ワークショップで行うアンサンブル体験の拡大版といった位置づけにもなっています。</p> <p>「あなたも舞台に!」は、昨年新たに始めた企画です。オーケストラの演奏エリア内に子供たちが入り、楽団員たちが演奏する姿や演奏テクニック、客席で鑑賞するときの音の響のの違いを体験していただきます。今年度の演奏曲は「J.シュトラウスⅡ世:トリッチ・トラッチ・ポルカ」で、参加上限については50名に引き上げをいたします。</p> <p>中学校では、当団が1997年に委嘱し初演した、徳山美奈子氏の『大阪素描』より、終曲の「祭」を採り上げます。当団の拠点である大阪の伝統的な祭りの風景や響き、大阪の町の空気や人の様子を描いた作品です。西洋楽器によって生み出される和の響きや、西洋楽器と和楽器の取り合わせにも注目していただきながら、オーケストラの可能性について感じていただきたいと思います。また、巡回先との文化交流という位置づけとなり、子供たちが郷土の文化や音楽について考えるきっかけとなることを願って演奏いたします。</p>		

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名 日本センチュリー交響楽団 】
<p>本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫</p>	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫<別添1></p>	<p>●自主事業や地域連携事業を通して培ったノウハウを生かし、児童生徒たちとの距離感を縮め、オーケストラや音楽を身近に感じていただける工夫を施します。</p> <p>当団では様々な企画で児童生徒向けの鑑賞会や音楽交流の場を持っており、初めてオーケストラを体験する子供たちを受け入れ、寄り添う姿勢が強くあります。</p> <p>自主事業「Touch The Orchestra」では、楽器体験や歌唱共演、演奏エリア内鑑賞などの演目を通して、ステージと客席の垣根を超えた音楽交流を積み重ねてきています。特に楽器体験では、演奏者と子供たちが会話を交えながら行うため、子供たちの反応を肌で感じています。演目を考える時、子供たちに言葉かけをする時、一緒に演奏する時など様々な場面で「Touch The Orchestra」での交流経験が生かされていると自負しております。</p> <p>同じく自主事業として実施している「特別支援学校コンサート」での経験についても、当事業を行う上で効果的に働いていると考えています。それぞれの個性を持った子供たちに対する理解度が高く、自発的な動きが出てくるまで見守る姿勢がある楽団員たちが多く在籍しているため、共演コーナーや代表生徒による体験なども、安心して楽団に委ねていただけます。</p> <p>また、当団にはコースオーケストラが存在しており、月に数回の頻度で楽団員たちが演奏指導を行っています。年に一度実施している自主公演での合同演奏などの活動を通して、成長を見守りながら子供たちの反応を直に受けていることもあり、「子供たちのために」という意識が自然に根付いています。</p> <p>●最後まで飽きずに楽しめる公演を作るため、児童生徒たちが自発的に活動できる演目を取り入れながら進めていきます。</p> <p>児童生徒たちが自発的に活動できる場面を作ること、公演全体の流れにメリハリを付けることを意識しながら、オーケストラと共演できる演目を取り入れています。約90分という公演時間を長く感じるか、短く感じるかは生徒それぞれですが、音楽やオーケストラに関心を持ってない児童生徒も退屈さを感じない90分となるよう心がけながら進行管理を行ってまいります。</p> <p>特に共演コーナーについては、会場全体での動きが生まれるため、空気を入れ替える時のような、新しい流れが起こります。自身の身体を使い、全員で一つの音楽を創り上げることでコンサートへの参加意識が芽生え、学校生活を共にしている仲間との協働、特別な空間を共有することの楽しさを体験していただくと考えています。ただ演奏を聴くだけ、難しい専門的な話を静かに聞かなければならない、という退屈な印象を持たせないよう、適切なタイミングで共演コーナーを織り交ぜ、音楽への興味関心度や学年さに左右されず、自然な形で演奏会を楽しんでいただける工夫を施します。</p> <p>●コンサートホールのような特別な空間を演出できるよう、舞台設営における工夫を施します。</p> <p>見慣れた体育館をコンサートホールのような特別な空間に感じていただけるようなセッティングを心掛けています。客席からの見栄えの良さ、後列の楽器たちが一番遠くで鑑賞する子供たちの目にも留まることを意識し、階段状に演奏者が並ぶようにセッティングさせていただきます(No.2「公演に係るビジュアル」もご参照ください)。ひな壇上には木管楽器とホルンが並び、体育館ステージの上にはホルンを除く金管楽器とティンパニが並びます。ステージ下のひな壇は、楽団から箱馬と平台を持ち込みます。</p> <p>中学校公演で予定している吹奏楽共演の際には、吹奏楽部の生徒たちがひな壇やステージに上がり、ご自身と同じパートの楽団員の隣で演奏していただきます。日頃の学校生活を共にしている仲間がステージに立つ瞬間を、客席の生徒・教員の皆さんにしっかり見届けていただきたいという思いもあり、階段状に演奏者が並ぶ配置を採用しております。</p> <p>また、演奏エリアの両サイドには黒屏風を設置いたします。簡易の舞台袖を作ることで演奏会場の雰囲気を作るとともに、楽器ケースなどの備品を隠すことで子供たちの集中を削がないように工夫しています。</p>

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名 日本センチュリー交響楽団 】
<p>本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫</p>	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫<別添2></p> <p>●児童生徒たちとステージとの距離感をより縮めるため、ワークショップでの司会進行は講師たちが、本公演での司会進行は指揮者が行います。</p> <p>クラシック音楽やオーケストラのコンサートに対して、難しさや堅苦しき、ハードルの高さを感じている子供たちは少なくありません。近年流行する音楽は、キャッチーなメロディや展開の早い音楽、短い時間で聴くことができる音楽などが特徴として挙げられ、現代の子供たちもそのような音楽によく触れる機会が増えていると感じています。クラシック音楽は、全てがそうではありませんが、その性質とは異なる作品が多いため、若い世代とオーケストラの距離が遠くなってしまっている理由の一つではないかと考えています。</p> <p>オーケストラの音楽の受け取り方を分からない子供たちにとって手助けとなるのは、曲紹介や聴きどころを言葉で受け取ることができるMCであると考えます。当団の進行台本は、曲のイメージや空気感、聴いた後の気持ちを想像しやすい言葉選びを心がけ、注目すべきポイントや聴きどころ・見どころをガイドする役割を意識して作成しています。その案内役をステージ上の演奏者(ワークショップは講師たち、本公演は指揮者)が行うことにより、説得力のある言葉として子供たちに届けることができ、実際に演奏者たちがどのように表現しているか興味を持つきっかけを作りやすくなると考えます。</p> <p>小学校公演においては、「Clip! Beat! Clap!2」で手拍子ナビゲーターを努める打楽器奏者、中学校公演では吹奏楽共演後に生徒たちへのコメントを送る代表楽団員が、子供たちの前でマイクを持ちます。子供たちに届ける言葉であることを意識しながら、大切に、丁寧に進めていきます。</p> <p>また、公演中の休憩時間では、子供たちが演奏者たちに声をかけに行く場面を頻繁に見かけます。音楽のこと、楽器のこと、学校生活のこと、様々な話題で楽しくコミュニケーションを取っています。会話を持つことで「ステージ上の遠い存在」という意識が無くなり、休憩後の子供たちは、演奏者一人一人に目を向けるようになります。声を聴くことで相手のキャラクターや人となりを理解すると、ここまで視線が変わるのかと思うほど、休憩後の子供たちは様子や集中度が全く変わります。演奏者の「声」を届けることも公演の重要な要素の一つとして捉え、大切に言葉を届けていきます。</p>	